

Ⅱ

## 実行委員会事業

# 式典関係







# 新潟開港150周年記念式典



国歌斉唱:TEAM Nii port スペシャルクルー 越乃 リユウ 氏

新潟開港150周年を契機として、これまでの歴史をふり振り返り、みなとまちの伝統文化等を再認識するとともに、港湾やまちづくりの将来展望を共有するため、秋篠宮同妃両殿下にご臨席を賜るとともに、ご来賓をお迎えして新潟開港150周年記念式典及び同記念祝賀会を開催した。

## 記念式典プログラム

- (1) 秋篠宮同妃両殿下ご入場
- (2) 開式
- (3) 国歌斉唱
- (4) 主催者あいさつ
- (5) 秋篠宮文仁親王殿下おことば
- (6) ご来賓あいさつ
- (7) みなとまち新潟の将来展望
- (8) 秋篠宮同妃両殿下ご退席
- (9) 閉式

**開催日時:**2019年1月23日

9:40~10:40

**開催場所:**新潟コンベンションセンター  
(朱鷺メッセ) 展示ホール

**参加者数:**535人




 新潟開港150周年記念事業実行委員会  
会長 新潟市長 中原 八一

### 主催者あいさつ 【要旨】

新潟港は、安政の五カ国条約により、函館、横浜、神戸、長崎と並び開港五港の一つに指定され、1869年1月1日に佐渡夷港を補助港として開港し、このたび開港150周年という節目の年を迎えた。

みなとまち新潟は、開港五港として世界に開かれる以前から、西廻り航路などの海運と信濃川・阿賀野川の舟運の結節点として、ヒトやモノ、文化の交流が行われてきた。それ以来、日本海側の交流拠点であり続けるとともに、貴重な歴史的街並みや芸妓文化、町人自治の気質などが今に伝わっている。

開港当初は信濃川河口の港であるがゆえに水深が浅く、大型船が入港できず、しゅんせつ工事で水深を確保するとともに、近代的な埠頭を整備することで、港湾都市として発展

することができた。その後、戦時中の機雷投下や新潟地震による被害などの危機を乗り越え、開港100周年に当たる1969年には新潟東港を新たに建設して、新潟港は日本海側屈指の国際拠点港湾となった。

開港150周年を迎えた今、幾多の苦難を乗り越えて、港をつくり、支えてきた先人たちに感謝の意を表するとともに、あらためてこれまでの歴史をふり振り返り、みなとまち新潟の素晴らしさや魅力を知ること、これからの新しい新潟のまちづくりにつなげていく。


 新潟開港150周年記念事業実行委員会  
名誉会長 新潟県知事 花角 英世

### 主催者あいさつ 【要旨】

今日まで信濃川河口にある新潟西港は、佐渡航路や北海道航路などの航路に加え多くの交流施設を有する新潟の海の玄関口として、にぎわいと交流人口の拡大に寄与してきた。

昭和44年に新たに開港し、本年11月に50周年を迎える新潟東港は本州日本海側最大のコンテナ貨物取扱量を誇る国際物流拠点として、また、LNGなどエネルギー供給基地として産業や経済の発展を支えてきた。

佐渡夷港として開港した両津港は、佐渡市民の生活を支える拠点として、また、佐渡金銀山の世界遺産登録が期待される佐渡観光の玄関口として重要な役割を担ってきた。

このように港湾は本県に欠かすことのできない社会基盤として、地域の発展に大きく貢献しておりその役割は今後も変わることなく、

これまで以上に重要になってくる。

開港150周年は新潟港、両津港の発展の歴史に思いを馳せるとともに新潟の豊かな自然や多様な地域資源、恵まれた農林水産資源や食文化などを国内外に発信する絶好の機会である。

これを機に北東アジアの玄関口として、港や空港の機能向上を図りながら、新潟の魅力を磨き上げ、県民の皆さまが新潟を誇りに思い、住み続けたいと思える新潟、国内外の皆さまが訪れてみたいと感じていただける新潟となるよう、精いっぱい取り組んでいく。

## 秋篠宮殿下のおことば



本年、新潟港は世界に開かれた港としての歩みを始めて150年の節目の年を迎えました。本日、その記念式典「新潟開港150周年」が、国の内外から多くの参加者を得て開催され、皆様とともにお祝いできることを誠に喜ばしく思います。

新潟は、古くから信濃川や阿賀野川の河口に位置する湊町として栄え、江戸時代には北前船の日本海側最大の寄港地として、水上交通の要衝となりました。時を経て、1858年に結ばれた安政の五カ国条約に基づき、1869年1月に佐渡夷港、現在の両津港を補助港として開港いたしました。

爾来、本州日本海側の拠点港として、国内のみならず対岸諸国との交流を通じ、我が国の発展に寄与してまいりました。

そのいっぽう、先の大戦における機雷投下や1964年に発生した新潟地震によって、新潟港や港町は大きな被害を受けたこともありました。このような大きな困難を克服し、開港から100年目を迎えた1969年には、新たに新潟東港が建設され、

従来からの西港と併せて、新潟港はますます重要な役割を果たすようになりました。

このことは、平素の人的・物的交流のみならず、東日本大震災が発生した際、東北太平洋側の港湾が機能を停止する中、新潟港がガソリンや救援物資の輸送拠点としての役目を担い、被災地の復興に大きく貢献したことは、記憶に新しいところです。

これらの歴史を振り返りますと、現在の新潟港の姿があるのは、皆様をはじめ、地元の人々が一丸となって力を尽くしてこられた賜物であり、今日に至るまでの歩みに対し、深く敬意を表します。

おわりに、開港150年が一つの契機となり、今後とも新潟港が我が国の経済発展や国際交流における重要な役割を果たしていくことを心より願っております。そして、本日ここに参集され、日ごろより新潟港や両津港、そして港町に関わっておられる多くの皆様の更なるご活躍を祈念し、本式典に寄せる言葉といたします。



ご臨席になる秋篠宮同妃両殿下





国土交通副大臣 塚田 一郎 様

### ご来賓あいさつ 【要旨】

西港は信濃川の河口に位置するが故に水路埋没が生じることや、日本海側特有の冬期風浪に対し、入港船舶の安全を確保する必要があり、明治時代から現在に至るまで、国において航路浚渫や防波堤整備などを行っている。新潟地震では、液状化現象により施設に壊滅的な被害が発生したが、関係者の不断の努力により復旧・復興を果たす。これを契機に、液状化メカニズムの解明が始まり、今では我が国における地震対策の礎となっている。その後、東港開港、国際海上コンテナターミナル供用、新潟みなとトンネルの開通など、港湾機能の拡充が進められている。

また、両津港は、佐渡地域の産業基盤や生活環境を支える上で必要不可欠な離島航路を有する港湾として発展を続けている。

国土交通省として、更なる地域発展のため、引き続き新潟及び佐渡の港湾整備などにしっかりと取り組んでいく。

## みなとまち新潟の将来展望

みなとまち新潟のこれまでの歩みを映像でふり振り返り、TEAM Nii portスペシャルクルーの越乃リュウさんと新潟市、佐渡市、聖籠町の中学生がみなとまち新潟の発展を誓う宣言を行った。



TEAM Nii port スペシャルクルー 越乃 リュウ 氏



佐渡市立両津中学校の生徒（ビデオ出演）



聖籠町立聖籠中学校の生徒



新潟大学教育学部附属新潟中学校の生徒



開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

## 新潟開港150周年記念祝賀会



歓談の輪に入られた秋篠宮同妃両殿下



**主催者あいさつ**  
会長 新潟市長 中原 八一



**ご来賓あいさつ**  
国土交通副大臣 塚田 一郎 様



**乾杯の発声** 名誉会長 新潟県知事 花角 英世

### 記念祝賀会プログラム

- (1) 秋篠宮同妃両殿下ご入場
- (2) 開式
- (3) 主催者あいさつ
- (4) ご来賓あいさつ
- (5) 乾杯
- (6) アトラクション
- (7) 秋篠宮同妃両殿下ご退席
- (8) 閉式

**開催日時:**2019年1月23日

11:05~12:30

**開催会場:**新潟コンベンションセンター  
(朱鷺メッセ) 4階 国際会議室

**参加者数:**248人





アトラクション: 古町芸妓の舞



歓談の様子

開催概要

実行委員会事業

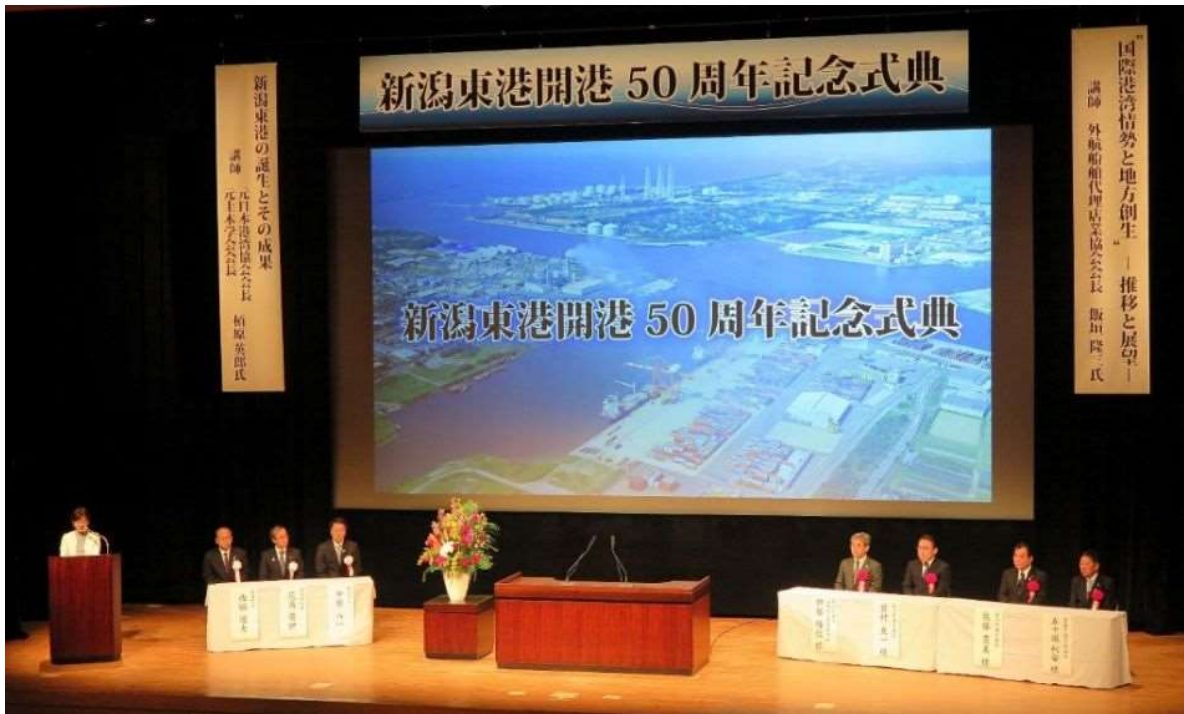
連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

# 新潟東港開港50周年記念式典



映像で50年をふり返る



会場の様子

## 記念式典プログラム

- (1) 主催者あいさつ
- (2) ご来賓あいさつ
- (3) アトラクション  
アルビレックス  
チアリーダーズによる  
パフォーマンス
- (4) 講演

**開催日時:** 2019年11月21日

14:00~16:10

**開催場所:** 聖籠町町民会館

**来場者数:** 329人

新潟東港は1969年11月19日に開港し、新潟開港150周年を迎えた2019年は東港の開港50周年を迎える年となる。新たな工業港として整備された掘り込み港湾は、今では本州日本海側最大のコンテナ取扱量を誇り、エネルギー供給拠点としての役割を担うなど大きく発展を遂げている。これまでの東港の歩みを振り返り、東港のさらなる発展を祈念し、記念式典を開催した。





会長 中原 八一

### 主催者あいさつ 【要旨】

新潟東港は、本州日本海側最大のコンテナ取扱量を誇るなど、国際物流拠点として実績を重ね、東日本大震災の際には、太平洋側の港湾施設が被害を受ける中で、物流およびエネルギー供給の拠点としての代替機能を発揮し、震災からの復興に大きな役割を果たした。また、大型クルーズ船の寄港先として、新潟東港の存在感はますます増していくものと考えている。

今後も、さらなる港湾機能強化のため県、聖籠町と連携して取り組んでいく。



名誉会長 花角 英世

### 主催者あいさつ 【要旨】

新潟東港は、土地の提供など、新潟市及び聖籠町の地権者の皆様からの多大なるご協力をいただき、1969年に開港し、本年11月19日をもって開港50周年を迎えた。

開港後は、石油ショックなどの社会情勢の変化により、必ずしも順風満帆ではなかった。エネルギー基地構想が打ち出され、国内最大級の火力発電所や、石油タンク17基を備えた備蓄基地、近隣県も含めた広域供給体制を備えたLNG基地が建設され、現在は、日本でも有数のエネルギー基地となった。コンテナ貨物量も供用開始から約4倍で本州日本海側最大の取扱量を誇るまでとなった。

今後も、新潟市および聖籠町とも連携しながら、新潟東港の振興と発展に向けて努力したい。



副会長 西脇 道夫

### 主催者あいさつ 【要旨】

新潟東港は、本州日本海側においてコンテナ取扱量、LNGの受入量ともに最大を誇る港。また、日本最大級の発電量を誇る火力発電所を持つ港として、皆様の生活や産業を支えながら成長してきた。

近年は大型クルーズ船の寄港も増加しており、交流の港としても活躍している。

東港の開港時は、全戸の移転が必要となった5集落を含む9集落で、約500戸の方々に、まさに墓石を背負っての移転をお願いし、大変なご苦労をいただいた。

次の50年に向けて、聖籠町も国、新潟県、新潟市、関係する皆様と連携し、港湾を中心とした地域の発展、港を活用したにぎわいづくりに積極的に取り組んでいく。今、東港を見つめる子どもたちが大人になったとき、東港が子どもたちの夢をかなえてくれる港であることを願っている。


 国土交通省港湾局長  
高田 昌行 様

(代読) 北陸地方整備局  
次長 伊藤 博信 様

### ご来賓あいさつ 【要旨】

新潟東港は、平成8年に国際海上コンテナターミナルが供用され、平成24年には増大するコンテナ貨物量への対応や大規模地震への備えとして新たな耐震強化岸壁の供用など港湾機能の拡充が進められた。

令和という新しい時代を迎え、私どもとしては、引き続き未来への投資となるストック効果を重視した社会資本整備を推進し、国民の安全安心や、豊かな暮らしの確保、経済再生と財政健全化の双方の実現に貢献したい。

港の元気なくして日本の成長なし。引き続き皆様と密に連携をし、取り組みを進める。

## 講演 国際港湾情勢と地方創生 ―推移と展望―

飯垣 隆三 氏 外航船舶代理店業協会会長



1989年は、アジアから北米に出る貨物の日本のシェアは、約30%あったが、今は約4%しかない。日本の港湾から出る荷物が他国に比べて伸び率が顕著に低くなった。一番の原因は、プラザ合意。自動車から電気製品など、あらゆる日本の製品が、世界の市場を席卷しており、欧米諸国は関税で抑えろとか、為替でもって日本の輸出を抑え、これにより日本の輸出競争力は落ちた。そして、日本の工場、生産拠点が海外へ出て、産業の空洞化が起こり、日本から出る荷物がほとんど増えなくなった。

資源も植民地もない国は、資源を輸入して技術でいいものをつくって輸出するという輸出立国でなければ成長しない。

輸出対GDPが30、40%に変わってくると、日本の物流も増えてくる。そういうことを期待したい。そのために、日本でもどんどん工場回帰してもらい、ある程度の企業、産業が、新潟など地方でものづくりをしてもらうことが必要。全国のある程度の都市が、まとまり広がりを持って成長していく。そうすれば日本の国力も戻る。それが地方創生。

新潟は東京のバックアップポートになるべきといわれている。新潟には優れたブランド力を十分つけることができる製品が多くあり、不可能ではない。私も微力ながら、さらに新潟が発展していくことへ、少しばかりでもお手伝いしていきたい。



## 講演 新潟東港の誕生とその成果

栢原 英郎 氏 元日本港湾協会会長、元土木学会会長



第一次全国総合開発計画をもとに、新潟は新産業都市に指定。新産業都市では、工業誘致をし、人口を増やし、工業出荷額を増やして税収が増加。生活基盤が整備され、豊かな地域の実現をするという企業誘致型の地域活性化モデルに従って企業誘致をしてきた。

企業誘致型は1970年代を中心に、日本の中心的な手法。現在は、企業を誘致しようとしても、海外に拠点が移っている。また、地方の余剰労働力も減少し、企業が来ないため、地域経済は発展しない、という状況。新潟東港の成果も思うように上がっていない。

21世紀は国際化の時代、交流の時代。第4次全国総合開発計画が、交流促進型地域活性化モデルを打ち出す。これは、自分たちが持っているいいもの、他に売れるものは何なのだろうかと、もう一度地域を見直すもの。交流の機会、イベントをつくることも必要。交流基盤、港や道路をつくったりすることも必要。これにより、地域の活性化を図るもの。異質なものと接触することで、社会全体が活性化し、新たな価値観が生まれ、文化が創造される。

今後、地域活性化のために、新潟ってどんな良いところなのかを、この50周年の機会に考えを変えてほしい。そして、どんどん売り出してぜひ、新潟に誇りを持っていただきたい。

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

# みなとまちイベント









## Nii port ブランドの情報発信

### みなとまち新潟のブランド名称



Nii portは、「みなとまち新潟」らしさ×新しさを体現するブランド。  
「Nii」は、にいがたの「にい」や「新しい」ということを意味したネーミングで、  
「ii」は「人と人」「愛と愛」の出会いを表し、人が集まり、出会い、交流すること  
で新潟港に新しい何かが、生まれて活性化されて行くという意味が込められている。

### TEAM Nii port スペシャルクルー



就任発表 記者会見 2017年8月21日



就任発表 記者会見 2017年11月13日



スイーツ完成発表 2018年5月9日



ラッピングバス試乗会 2018年6月24日



イベント参加でPR 2018年7月15日

TEAM Nii portは、記念事業の開催趣旨  
にご賛同をいただいた幅広い分野の方々  
にご参画をいただくサポーター制度であり、  
みなとまち新潟を盛り上げる運動体。

スペシャルクルーは、新潟にゆかりのあ  
る著名人等に就任をいただいております。  
記念事業期間中に様々な形で連携をいただいた。



機運醸成

## みなとまち新潟フォトコンテスト



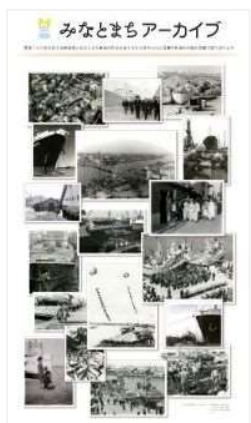
一般・大賞：華やかなひと時



一般・優秀賞：出船桟橋



一般・優秀賞：港からの旅立ち



寄せられた写真をもとに作成したタブストーリー



学生・優秀賞：みなとまち、映る。



学生・優秀賞：港町の橋の間から

開港150周年に向けた機運醸成とみなとまち新潟の魅力再発見するため、フォトコンテストを開催した。テーマは、「みなとまち新潟とその宝」。新潟港、佐渡・両津港の風景写真はじめ、みなとまち新潟の魅力あふれる“宝”（風景、ヒト、モノ、コト）を収めた写真を募集した。

計384点（126人）が集まり、一般部門、学生部門から入賞作品（大賞、優秀賞、佳作）35点が選出された。

同時にInstagram・みなとまちアーカイブ部門も募集し、期間中は多くの写真が投稿された。アーカイブ部門では、自宅などに残る昔の新潟港の風景写真などが寄せられた。

応募作品は、様々な広報物に使用され、みなとまち新潟の魅力発信や記念事業のPR素材として活用が図られた。

**募集期間**：2017年8月10日

～2017年11月30日

**審査員**：渡辺収一郎（新潟県美術家連盟 副理事長）、  
実行委員会構成団体、ほか

**協力**：（株）新潟フジカラー、  
リコージャパン（株）新潟支社

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

機運醸成

## プレシンポジウム～みなとまちの宝を磨いて～



### プログラム

開会 あいさつ	主催者 篠田 昭 会長 新潟市長 共催者 田中 愛智朗 内閣官房「明治150年」関連施策推進室次長
基調講演	<b>演題：みなとまち新潟の繁栄のあゆみ</b> 講師 原 直史 氏 新潟大学人文学部教授
みなとまち新潟 フォト コンテスト 表彰式	講評 渡辺 収一郎 氏 日本写真家協会会員／新潟県美術家連盟副理事長 <b>一般の部</b> 大賞：中野 金吾 氏 優秀賞：大竹 俊夫 氏 上松 邦法 氏 <b>学生の部</b> 優秀賞：石月 美凧 氏 五十嵐 駿也 氏
パネル ディス カッション	<b>テーマ：みなとまち新潟の宝</b> パネリスト 越 乃 リュウ 氏 元宝塚歌劇団月組組長 小 島 富美子 氏 NPO法人にいがた湊あねさま倶楽部代表 あ お い 氏 古町芸妓 篠 田 昭 氏 新潟市長

明治元年は、日本が近代国民国家への第一歩を踏み出した年。開港地・新潟も同時に近代化への歩みを始めた。

新潟開港150周年を迎えるにあたり、みなとまち新潟の魅力を再発見しようとプレシンポジウムを開催した。

また、「明治150年」地域イベントとして内閣府との共催イベントとした。

併せて、みなとまち新潟フォトコンテストの表彰式を行った。（下写真）



開催日時：2018年1月13日  
13:30～16:30

開催場所：新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）

来場者数：約200人

共 催：内閣官房「明治150年」  
関連施策推進室



## 基調講演 みなとまち新潟の繁栄のあゆみ

原 直史 氏 新潟大学人文学部教授

新潟の港は信濃川の河口に面して大きく開いたみなとまち。1700年代半ばまでは信濃川と阿賀野川は新潟の前で合流しており、そこに豊富な水があり深い水深を確保できた。

しかし、松ヶ崎の堀割決壊の影響で阿賀野川の水が河口に来ず、新潟の港は浅くなり、このことをきっかけに港は停滞していく。その後、西廻り航路での北前船の活動が盛んになり、新潟みなとの繁栄へとつながっていく。

新潟は、網の目のように繋がった水路で、内陸の地域と川筋で繋がり、新潟にモノを持っていくと売れ、新潟に行くと安価で豊富な米があった。全国から北前船が集まっていた。経済的に上向き大きな繁栄を迎え、幕末期には新潟の人口は約3万人となった。

新潟はもともと長岡藩のみなとまちだったが、二度にわたる唐物の抜け荷（密輸）事件で管理上の問題を問われ、天保14（1843）年に幕府が新潟を長岡藩から上知（没収）する。

しかし、幕府には日本海側に海岸防御の拠点として、ある程度の規模を持ち、経済的にも栄えている場所を確保したいという非常に強い意図もあった。



安政5（1858）年の安政の5カ国条約を結ぶ際に、諸外国は日本海側にも開港地を要求し、幕府は天領である新潟を提案するが、水深が浅く不適であり開港は延期される。その後、戊辰戦争などの影響もあり延期が繰り返されるが、佐渡の夷港を補助港として1869年1月1日に開港した。



しかし、当時の輸出の中心であった生糸や絹織物を集めて輸出する拠点として新潟は弱く、港が浅く外国船が直接入れなかったこともあり、外国貿易は停滞する。

外国貿易に関しては振るわなかったが、開港により新潟のまちは県都として展開していく。越後の国、佐渡の国を管轄するようになり、県の中心地の役割を果たしていく。そして新潟県令を務めた楠本正隆が、積極的に文明開化の政策を推し進めた。例えば、まちや堀の名前を改正し、白山神社を公園として開発する。

しかし、名前は変えたが、江戸時代以来の枠組み・骨組みは全然変えていない。このことは我々が重視すべきこと。

また、第四国立銀行が東京・横浜・大阪に続く4番目の国立銀行として新潟に作られる。新潟は開港場として幕末以来の位置づけがあり、後背地との豊かなつながりもある。特に、川筋で繋がっている大地主たちの拠点でもあり、大地主たちの資金を開港場に集中させるというのが、第四国立銀行の大きな役割だった。

江戸時代以来の繁栄が新潟開港の大きなきっかけとなった。外国貿易とは不幸なミスマッチがあったが、別の形で新潟港の繁栄は続いてきた。新潟の文明開化は江戸時代に出来上がった骨組みの上に近代的な装いを凝らしてきたもの。

堀はつぶれて道になるが、全く新しい物というわけではなく、基本的に江戸時代の骨組みは残ったままということがまちを歩いていて実感できる。ここに気付くことで新潟の宝を見つけることができるのではないか。

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

## パネルディスカッション みなとまち新潟の宝

### 原 直史氏

それぞれの活動を通して感じたみなとまち新潟の魅力について伺います。



### 越乃 リュウ氏

17歳で宝塚を受験し新潟を出た。関西は言葉の早さなど、新潟とはまるで違う土地柄。刺激的だけど、新潟ののんびりした感覚が一層いとおしく感じた。街に信濃川がゆったりと流れ、水に囲まれた風土が争いごとを好まない県民性を育んだ。年月が経つほどそう思うようになった。日本海も好きで、宝塚に入り2～3年たった頃、日本海の音を録音して聞いていたことがあった。新潟の宝と言えば日本海と信濃川。水だと思う。

### あおい氏

古町芸妓は気さくで芸達者。でも、どこか素人くさいと言われる。初めての客にも10年来の友達のように楽しくもてなして帰るのがいいところ。船乗りや商人が集まる中継地点だったからそうなのかもしれない。今はトキよりも少なくなった古町芸妓をどう残し、増やしていくかが悩み。力を入れているのは啓発活動。小中学校を訪ね、総合学習の時間に踊りを披露したり一緒に撮影したり、多くの人に接する機会を重視している。



### 小島 富美子氏

新潟港が大好きな人を増やそうと「にいがた湊あねさま倶楽部」を立ち上げた。以前、新潟港で働く人たちに「新潟港の良いところ」を提案してもらい、写真や映像にした後、新潟らしい風景を市民から選択してもらった。1位は造船所から見る港。次がタグボートなど様々な船が忙しげに動く姿。派手さはなく、いぶし銀のように新潟港の底力を感じさせる風景に市民が愛着を持っていることが分かった。他の開港4港に比べ異国情緒は少ないが、このユニークさがむしろ宝になるのではないか。

### 篠田 昭氏

初代新潟奉行に就いた川村修就は、新潟の女性の勤勉さはすばらしいと折りに触れて書いている。このような民の力が一番の宝。新潟港は外国貿易ではミスマッチがあり、港の条件も悪く苦しんだ。それでも民が力を合わせ、港を発展させてきた。今でも浚渫しなければ、信濃川の大量の土砂で機能が低下してしまう。水や土と戦いながら本州日本海側最大のみなとまちをつくってきたのは新潟の民。開港150周年を盛り上げ、再び市民の力を結集させたい。







**原 直史氏**

新潟の魅力や宝をどう未来につなげていくのか。また地域の若い人たちに広めていけばいいのか。

**越乃 リュウ氏**

宝塚に入って痛感したのは、自分が思うことは言葉にしなければ誰も分からないし、共感もされないということ。上手な発信方法については北前船といういい例がある。北前船は新潟じゃなくて他県にあるもの、他県じゃなくて新潟にあるものを運んだ。さらに新潟港は川港で広い地域とつながっていた。北前船のやり方を今の時代に合った形に改めれば、県民みんなが新潟の宝をPRできる。



**あおい氏**

古町芸妓の毎日は昔から全く変わらない。夜遅くまで働いて朝早く起きて、稽古に行って怒られて。皆が当たり前のように精進を重ね、芸を後輩に渡してきた。当たり前のことを当たり前で継続する力を大事にしたい。基調講演を聴き、何かを守ることは頑固になることではなく、しなやかになることだと感じた。緩やかに変化しつつ、少しずつ新しいものを取り入れれば、後輩を増やすことができると信じている。

**小島 富美子氏**

海岸にある消波ブロックはすてきな宝の山になると思う。新潟港や海岸線を守ってきた感謝の意味も含め、デザインを施して新しいマークにしてはどうか。発光ダイオード（LED）を使えば、きらめく立体アートにもなる。また、夏の民謡流しで、開港150周年を祝う新潟甚句の新しい歌詞を募集する。開港150周年は、県内各地の川港を巻き込んで一緒に盛り上げたい。



**篠田 昭氏**

新潟港が川湊で各地とつながっていたというのは外せないポイント。信濃川と阿賀野川の大きな流域があったこそ、川湊の新潟が活きた。また、2017年には新潟と長岡の両市を含む7道県11市町にまたがる「北前船寄港地・船主集落」が日本遺産に選ばれた。日本海側の港に連帯感が芽生え始めている。「新潟県民は宣伝下手だから」と諦めてしまわず、先人が培った絆やつながりを土台にアピールしたい。

## シティドレッシング

新潟開港150周年に向けた機運醸成を図るため、街頭バナーや横断幕などでまちなかを開港150周年色に彩った。



新潟駅前階段



信濃川右岸道路



新潟三越

新潟日報メディアシップ



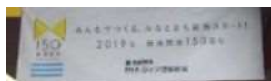
新潟市役所前



新潟駅南口広場



新潟県庁



新潟駅東西 自由通路



砦谷小路



東大通

**実施期間:**2018年4月26日  
~2019年12月27日

**設置場所:**  
新潟駅東西自由通路、砦谷小路、東大通、新潟駅南口広場、信濃川右岸道路、新潟県庁、新潟市役所、新潟三越、新潟日報メディアシップほか



機運醸成

## Nii port事業／みなとまちスイーツの開発

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



波と雪のパンケーキ（イートインスイーツ）



宝箱スイーツ（レシピ完成）



試食会の様子



試食会の様子



ワークショップの様子

新潟の伝統文化「古町芸妓」と次世代を担うパティシエの卵「新潟食育・保育専門学校 えぷろん」の生徒が、スイーツを通じてみなとまち新潟の魅力を伝え、機運醸成を図ろうと、2種類のスイーツを開発した。

### 波と雪のパンケーキ（イートイン）

開港150周年をきっかけに、隠れていた魅力を発見してほしい、また、新潟に来て、見て、触って、楽しんで食べてもらいたいという思いを込めて、イートインメニューを開発した。

### パンケーキの特徴

- ・日本海の波や新潟の雪を表現する白でパンケーキを覆う
- ・みなとまち新潟の魅力やシンボルが出現
- ・新潟の食材を使用している

### ◆ ワークショップ

開催日：2017年12月22日  
2018年2月1日

### ◆ 試食会

開催日：2018年3月1日  
参加者：新潟県菓子工業組合、  
Lily&Marry'S（TEAM Nii port  
スペシャルクルー）

### ◆ 完成発表会

開催日：2018年5月9日  
開催場所：新潟三越「柳都祭」特設会場  
2018年5月9日～14日：新潟三越7階  
レストラン「マーガレット」で提供  
2018年7月21日～：「80万人のための  
フレンチOV」（新潟市中央区）で提供

## Nii port事業／古町芸妓×企業



みなと文化の深化と次世代への継承を図ろうと、みなとまちのおもてなし文化の象徴・古町芸妓を活用した情報発信に取り組んだ。

開港150周年記念商品の開発を通じた民間企業とのマッチングに着目。「古町芸妓 × 企業」と銘打って記者会見を実施。

各メディアからも取り上げてもらい、取り組みは広がり、数多くの記念商品の開発・販売の実現につながった。



**記者会見開催日:**2018年6月7日

**開催場所:**新潟市役所

**記者会見参加企業:**

- ・アサヒビール株式会社
- ・株式会社きくや
- ・サッポロビール株式会社
- ・株式会社鈴木コーヒー
- ・新潟県観光物産株式会社
- ・新潟県酒類販売株式会社
- ・日本郵便株式会社
- ・メルシャン株式会社 (五十音順)



機運醸成

## Nii port事業／みなとまちラッピングバス制作

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



記念事業コア期間の開幕に向け、新潟の街を訪れてくれた方々に「世界に1台だけのバス」でおもてなしをしようとみなとまちラッピングバスを制作。

スペシャルクルーのNegiccoさんから協力をいただき、新潟交通路線バス「みなと循環線」を走る車輛のラッピングデザインや車内アナウンスを担っていただいた。

ラッピング制作費用は、クラウドファンディングを活用して調達した。目標を上回る資金を確保することができた。

### ◆ 完成発表会

開催日：2018年6月24日

開催場所：新潟市役所前ロータリー

来場者数：200人

◆ 運行開始日：2018年6月25日

### ◆ クラウドファンディング概要

募集期間：2018年2月1日～4月21日

調達金額：4,255,000円

(目標金額：4,000,000円)

## ミニトークセッション



記念事業コア期間を目前に控え、さらなる機運醸成を図ろうと新潟県出身のタレントとして活躍する大桃美代子さんによるミニトークショーを開催した。

「新潟市は都会でありながら、海や山、川などの自然が近い。みなとまちのおもてなし文化の象徴、古町芸妓の文化が継続していることは素晴らしいこと。」と語ってくれた。

新潟に住んでいるとなかなか気が付かない“外から見たみなとまち新潟の魅力”を発信していただいた。

当日の店内では、開港150周年を記念して発売された記念商品を販売する企業さんからもブース出展をいただき、休日の混み合うなか、開港150周年の幕開けを大々的にアピールすることができた。

**開催日:**2018年6月30日  
**開催場所:**イオンモール新潟南  
 (特設ステージ)  
**来場者数:**250人



コア期間

## オープニングイベント

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



新潟開港150周年のオープニングを飾ったキックオフイベント 海フェスタにいがた



キックオフイベント海フェスタにいがたの開会式と併せて開港150周年のオープニングを演出するとともに、海の総合展特設会場におけるStarting stageの開催、オープニングパレードへのスペシャルクルーの方々からの参加を通じ、記念事業コア期間の開幕を盛大にアピールした。

- ◆ 海フェスタにいがた/開会式  
開催日時: 2018年7月14日 10:30~11:20  
開催場所: 新潟市民芸術文化会館
- ◆ 海フェスタにいがた/海の総合展会場  
新潟開港150周年 Starting stage  
開催日時: 2018年7月14日 12:30~15:00  
開催場所: 新潟日報メディアシップ  
来場者数: 850人
- ◆ 海フェスタにいがた/オープニングパレード  
開催日時: 2018年7月15日 16:00~17:00  
開催場所: 西堀通り  
来場者数: 42,000人

## 新潟開港150周年 Starting stage



新潟出身のプロレスラーでTEAM Nii port スペシャルクルーのスーパー・ササダンゴ・マシンさんからトークショーに出演していただいたほか、アルビレックスジュニアチアリーダーズからもエネルギッシュなパフォーマンスを披露してもらった。



## オープニングパレード

オープニングパレードには、みなとまちラッピングバス（通称：ネギバス）を先頭に、NegiccoやLily & Marry's、各局アナウンサーなどスペシャルクルーの皆さんが参加した。ディズニーキャラクターも参加してのパレードということもあり、沿道は県内外から大勢の観客で賑わった。記念事業のコア期間開幕を華々しく飾るオープニングイベントとなった。





コア期間

## ブルーインパルス展示飛行



新潟開港150周年という記念すべき節目に記念事業のコア期間幕開けを印象付けるスペシャルイベントとして実施した。新潟市上空での展示飛行は16年ぶりとなった。

特別観覧場とした新潟市陸上競技場や周辺のやすらぎ堤などは、大勢の観覧者で埋め尽くされた。新潟東港で一般公開していた海上自衛隊の護衛艦「ひゅうが」の上空を通過するなどし、新潟港全体を大いに盛り上げてくれた。

ブルーインパルスは、大空に「夢・感動」を描くアクロバットチームとして、航空自衛隊の航空祭や国民的な大きな行事等で華麗な展示飛行を行っている。

### プログラム

ブルーインパルス隊員による展示飛行 DJの様子をFM新潟で生放送
隊員によるファンサービス
ブルーインパルス関連グッズ等の販売

**開催日時:** 2018年7月16日  
12:00~16:00  
**開催場所:** 新潟市陸上競技場 ほか  
**観覧者数:** 150,000人  
**他主催者:** 航空自衛隊

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

コア期間

## ポップサーカス新潟公演



記念事業コア期間の幕開けを飾るイベントとして、サーカスを楽しんでもらうことに加え、情操教育、地域振興、地域福祉などに貢献することを目的として、地元テレビ局と共同でポップサーカス新潟公演を開催した。新潟での公演は9年ぶり。

世界中から集結したトップパフォーマーによる至高のパフォーマンスが繰り広げられるとともに、子どもからお年寄りまで、ハイレベルなサーカスフェスティバルを期間中に楽しんでいただけた。

ポップサーカス運営サイドのご厚意により、特別鑑賞券が当たる企画も行われた。また、全国からも多くの申し込みがあり、会場は連日多くの観客で賑わいをみせてくれた。

**開催期間:**2018年7月16日～9月9日

**開催場所:**新潟市産業振興センター前  
大テント

**観覧者数:**83,000人

**他主催者:**TeNYテレビ新潟



コア期間

# 川もり海もり調査隊2018

## 子ども流域連携体験交流

新潟開港150周年を契機に、開港五港で唯一の川湊である新潟港の歴史に触れ、信濃川や阿賀野川でつながる新潟と長野と福島の子どもの交流を図ろうと子ども流域連携体験交流に取り組んだ。

未来を担う子どもたちから、川の大切さを知っていただき海に親しみを持ってもらおうと「川もり海もり調査隊」の結成を呼び掛けた。



この取り組みは、日本財団 海と日本プロジェクトの一環として行われたものです。

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

### 新潟×長野

2018年 7月21日	事前学習会
・信濃川、千曲川を学んでクイズづくり	
8月 1日・2日	体験交流会 新潟市内で1泊2日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・信濃川河口や新潟西港を見学</li> <li>・学習発表会 ... 互いの地域を知り合う</li> <li>・日和山浜で海体験（生き物探し、海水浴）</li> <li>・新潟港湾空港技術調査事務所の見学</li> <li>・お魚マイスター講座</li> </ul>	
参加者	新潟・長野の小学5・6年生 42人

#### ■ 事前学習会



新潟と長野の子どもたちがSkypeでお互いの会場を中継し合い、体験交流会前に対話

#### ■ 体験交流会



旧第四銀行住吉町支店内の会議室で昼食



佐渡汽船カーフェリー大回頭の見物



事前学習で作ったクイズを出し合い  
お互いの地域を知り合った



海に入って生き物探し



海や浜辺での楽しみ方について学ぶ



水理実験場を見学



鳴り砂の体験



お魚マイスターからアジの食べ方を学ぶ





新潟×福島

<b>8月 18日・19日</b>	<b>塩コース</b> 佐渡市・新潟市内で1泊2日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿賀野川河口を見学後、佐渡島へ</li> <li>・塩づくり工房で塩づくり製法を学ぶ</li> <li>・海水浴場で海あそび</li> <li>・ライフジャケットの装着実習</li> <li>・星空観察</li> <li>・佐渡の海の生き物講座</li> <li>・新潟市歴史博物館を見学</li> </ul>	
<b>参加者</b>	新潟・福島の小学 5・6年生 40人



昔ながらの塩づくり工房を見学



塩づくり製法の作業行程を学ぶ



七浦海岸・夫婦岩付近で海あそび



いつも見る塩とは違って結晶が大きい



バナナボートでマリンスポーツ体験



蟹まるごと一匹に挑戦

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

<b>8月25日</b>	<b>鉄コース</b> 三条市内で日帰り
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟市歴史博物館を見学</li> <li>・参加者交流ワークショップ</li> <li>・三条鍛冶道場で工作体験</li> <li>・相田合同工場の見学</li> </ul>	
<b>参加者</b>	新潟・福島の小 5・6年生親子 40人



会津と新潟・日本海の舟運文化を学ぶ



五寸釘を真っ赤になるまで熱すことから始まった



鉄が冷める前に手際よく形を整えるようにたたく



やすり掛けをして磨き上げていく



かつては、舟運で会津へ農機具が運ばれていたことを学ぶ

#### ◆ 冊子の作成

**配布:**新潟市・佐渡市・聖籠町・長野市・会津若松市および、新潟県内の信濃川・阿賀野川の3km圏内にある小学校の6年生児童(約18,000人)





コア期間

## 砕氷艦「しらせ」一般公開

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



舞鶴音楽隊によるミニコンサート



南極の氷の展示

### スケジュール

2018年 9月14日	新潟東港着岸 入港歓迎式典、艦上懇談
9月15日	一般公開 歓迎レセプション (会場：イタリア軒)
9月16日	一般公開
9月17日	新潟東港出港

「しらせ」は、南極地域観測協力をを行う日本唯一の砕氷艦で、2009年に就役した2代目「しらせ」は新潟初入港となった。会場は、連日親子連れが県内外から訪れ多くの来場者でにぎわい、船や港を身近に感じられる機会を提供できた。

**開催期間:** 2018年9月15日～9月16日  
**開催場所:** 新潟東港南ふ頭木材岸壁  
**来場者数:** 20,300人

## 新潟エンジン02



エンジン01文化戦略会議の協力により、パネルディスカッション形式の公開講座「新潟エンジン02」を開催。

新潟市では、2007年の「エンジン01オープンカレッジ」以来、11年ぶりの開催となった。

さまざまな分野の第一線で活躍する文化人22名を招聘し、「Niigataのi(あい)は一つじゃない～150年目の告白～」をテーマに計15講座を実施。

参加者が著名講師陣と一緒に新潟の新しい魅力を発掘・発見し、全国に向けて発信する機会となった。

また、新潟市内の飲食店4か所で「夜楽」も開催。講師を囲んで新潟の食を楽しみながら語り合われた。

**開催日:**2018年9月29日・30日

**開催場所:**新潟コンベンションセンター(朱鷺メッセ) **来場者数:**4,700人

**他主催者:**新潟エンジン02実行委員会

**協力:**エンジン01文化戦略会議、新潟県、新潟市、一般社団法人新潟青年会議所



コア期間

## 出張！なんでも鑑定団in新潟

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



県内外に向けて新潟開港150周年をPRするため「開運！なんでも鑑定団」の人気コーナーである出張鑑定を誘致し、公開収録を行った。

収録では、満員の観客席を前に、6人の依頼人が自慢の品々を出品。

みなとまち新潟の幻の逸品への期待に加え、鑑定士による解説と笑いを交えた司会進行に、会場からは大きな歓声が沸き上がっていた。

収録した番組は、テレビ東京及び系列局やNST等で放送され、新潟開港150周年の盛り上がり全国に向けて発信された。

**収録日:**2018年12月2日

**収録場所:**新潟県民会館

**収録来場者数:**1,700人

**放送日時:**2019年1月29日 テレビ東京

2019年2月9日 NST

※その後再放送あり

コア期間

## 記念講演会 みなとまちの魅力再発見

— 旅行家イザベラ・バードが見た明治の新潟 —



### プログラム

開会あいさつ	中原 八一 会長 新潟市長
記念講演	<b>イザベラ・バード</b> <b>— 旅の生涯と日本の旅 そして新潟</b> 講師 金坂 清則 氏 京都大学名誉教授/地理学者
パネル ディス カッション	<b>みなとまちの魅力再発見</b> パネリスト 神田 勝郎 氏 北方文化博物館館長 野内 隆裕 氏 路地連新潟代表 伊藤 頼子 氏 みるみる沢海まちあるきガイド代表、 新潟イザベラ・バード研究会代表 コーディネーター 小野沢 裕子 氏 フリーアナウンサー
閉会あいさつ	福田 勝之 新潟商工会議所会頭

日本におけるイザベラ・バード研究の第一人者である京都大学名誉教授の金坂清則 氏を講師に招き記念講演会を開催した。

開港から10年後の新潟のまちを訪れた英国の旅行家イザベラ・バード。バードの旅の意義、そして旅先での発見から見えてくる、みなとまち新潟の魅力や希望に満ちた未来について考える機会とした。

また、写真展も同時に開催した。バードが旅で記してきた文章や旅行記に用いた銅版画、撮影した写真のほか、地理学者 金坂 氏が25年かけて自ら撮影してきた、バードが訪れた旅の先々を映した世界各地の写真などが展示された。

開催日時:2018年12月22日 13:30~16:30

開催場所:新潟日報メディアシップ日報ホール ※会場外の大型ビジョンで同時中継を実施

来場者:約280人

他主催者:新潟商工会議所、新潟日报社



## 記念講演 イザベラ・バード ー旅の生涯と日本の旅 そして新潟

金坂 清則 氏 京都大学名誉教授／地理学者

旅行記を読むとは、その基になった旅を読み、旅する人を読み、旅した場所・地域を読み、旅した時代を読むこと。そのためにツイン・タイム・トラベル（過去の旅行記に描かれた旅の時空と、現在の自分の旅の時空を後者に主体性を持たせつつ重ね合わせる旅）が大切だ。旅は古典と結びつけることによって、もっと知的で楽しいものになる。

イザベラ・バードは、22歳から69歳まで世界を旅した。日本では当時、外国人が自由に旅できたのは五つの開港場（横浜、長崎、函館、神戸、新潟）と二つの開市場（東京、大阪）から半径10里（40km）の範囲。その以遠をインテリア（内地）という。彼女の旅の記録の原題は、「日本の未踏の地－蝦夷の先住民および日光東照宮・伊勢神宮訪問を含む内地旅行の報告」。

彼女に旅を依頼したのは英国公使ハリー・パークス。特別の旅行免状も持たせた。異文明と異文化の国日本の真の姿を明らかにすることが目的。キリスト教伝道の可能性を探る旅でもあった。神社や寺院、日本人の宗教観に関する記述はこれと無関係ではない。新潟でもお寺に行っている。

時に鋭い批判を伴ったが、これは日本だけにではない。根底には、日本と日本人、アイヌへの柔らかくで真っすぐなまなざしがある。現地の人々との交流も見逃せない。結婚式や葬式に臨み、子どもの遊びの輪に身を置いて書いた描写は貴重な歴史資料。新潟でもそういう記述がいくつもある。

新潟では英国のファイソン宣教師とパーム医療宣教師の伝道活動を見て、寺町の寺院を訪ねた。これは丹念に調べると、勝楽寺のことだとわかる。そこには英国領事館もあった。

当時の地図と、本町、古町、西堀の写真を見ると、いろんなことがわかる。町は新潟県令・楠本正隆が整備し、堀が美しく、ごみも落ちていない。これを見れば、バードが旅した140年前の景色にだいぶ近づけるのでは。

明暦元（1655）年に新潟新町屋敷替えがあり、屋敷地の表が道、裏が堀が川になった。バードは「堀から物を運び込めない家はほとんどない」と書いた。堀が機能していたことをちゃんと書き残してくれた。

バードの旅と記録を生かす道として、ぜひ、旅行記を読み、ツイン・タイム・トラベルを実践してほしい。そして、新潟をバードへの関心の新たな磁場にしてほしい。新潟に来なければバードのことが分からないというように。

バードの旅を市民の文化・レクリエーションやまちづくりに生かし、さらに彼女が住んだ英国・スコットランドとの交流も市民レベルでできないか。バードに関心を持つ人たちが集まり、話し合えたら、素晴らしい。

### イザベラ・ルーシー・バード

（1831年－1904年）

イングランド北部バラブリッジで牧師の家に生まれ、22歳から69歳まで南米以外の全大陸を旅し、著した旅行記の多くはベストセラーになった。日本では1878（明治11）年、日光・会津・新潟・山形・秋田・青森を経て北海道に至る旅と、関西・伊勢神宮の旅を行った。単なる個人的な旅、あるいは妹へ現地から書き送った手紙がもとになっていたと誤解されてきたが、『完訳 日本奥地紀行』全4巻と『イザベラ・バードと日本旅』でそれが覆され、記録の確かさと新潟の旅の重要性が明らかになった。

「Nii port PRESS vol.4」より

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

## パネルディスカッション みなとまちの魅力再発見

みなとまち新潟の魅力再発見をテーマに、これまでイザベラ・バードに関するさまざまな取り組みに尽力されてきた方々に参加いただき、イザベラ・バードへの想い、これまでの活動などについて語っていただいた。



### 神田 勝郎 氏

北方文化博物館館長

北方文化博物館（豪農の館伊藤邸）は沢海（新潟市江南区）にある。バードは津川から阿賀野川を下り、小阿賀野川に入る分岐点にある木津集落の様子を見ながら川を下った。



町並み整備中の古町通

その後、ここでは木津切れ（破堤）という悲しい出来事があった。昭和20年7月には米軍のB29が墜落し、搭乗員のうち4人が亡くなり、住民が埋葬した歴史もある。県令・楠本正隆による揮毫（きごう）「横雲橋」もある。楠本は新潟の町をきれいにするため町民を指導した。バードが新潟を訪れたとき、町がきれいだった。

沢海の伊藤邸には終戦直後、進駐軍が調査に訪れ、「こんなすばらしい日本文化が凝縮したところはない。一般開放すべき。」と言われた。おかげで伊藤邸が残り、北方文化博物館となり、そのときのライト中尉は偶然にも伊藤家七代当主と母校が同じ米ペンシルベニア大学と分かり、交流を深めた。せっかくバードが訪れた新潟市。8区それぞれの歴史を見直し、市の発展のために活かしてはどうか。



### 野内 隆裕 氏

路地連新潟代表

みなとまち新潟の魅力は、もう発見されている。今はそれを発信している段階。

文化庁選定の日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落」の文化財には新潟市内で白山神社の大船絵馬、旧斎藤家別邸、日和山など計11件が認定された。以前、まち歩きイベントで日和山を案内したところ、参加者から「イザベラ・バードも上った」と聞いた。そこで金坂先生の本「完訳 日本奥地紀行」を読んだところ、「町の景色は木造の見晴台に上らないと一望できない」とあった。この見晴台について、金坂先生は注釈で日和山の舟見台と記してくれた。

シティガイドの案内にバードの視点を加えると膨らみが出る。以前から当時の雁木の絵をまち歩きに使っていたが、バードも町の美しさの一つとして「町通りに沿って庇（ひさし）の深い通路がずっと続いている」と雁木を表現している。

路地連で小路巡りをやってきた。本日、地理学者である金坂先生から（今も痕跡がある）新潟の町割を説明してもらい、魅力的だと言ってもらえた。今後の活動に向け勇気が出た。







## 伊藤 頼子 氏

みるみる沢海まちあるきガイド代表  
新潟イザベラ・バード研究会代表



新潟イザベラ・バード研究会では2018年3月、まち歩きのガイド団体の方々と新潟～津川の旅を行い、バードのように阿賀野川で舟下りを体験した。まず私たちが知らないといけないと思って企画した。

12月には新潟～黒川を旅した。信濃川ウォーターシャトルやバスに乗り、一部は歩いて、バードの見た風景を見た。これらと同じコースを金坂先生と3月にたどった。金坂先生の好奇心はバードなみで、行く先々で「写真を撮りたい」とおっしゃり、なかなか予定通りに進まなかった。バードの通訳兼従者だった伊藤鶴吉の気持ちが分かった気がした。私も同じ伊藤だが、鶴吉や北方文化博物館の伊藤家と親戚ではない。ただ、バードのファンとして、鶴吉にも関心を持っていきたい。

新潟にはガイド団体が多い。連携の具体案を話し合っており、その一つが砂丘巡りで、もう一つがバードのゆかりの地巡り。各地の実施日をずらし、それぞれ参加できるようにシリーズ化したい。古いことを体験するだけでなく、今の時代も楽しめるよう各地がつながっていく企画を進めたい。

## 【同時開催】写真展 ツイン・タイム・トラベル イザベラ・バードの旅の世界



金坂先生が25年かけてバードと同じ場所で撮影してきた写真などを展示。ツイン・タイム・トラベルの面白さを伝える写真展となった。

**開催期間:**2018年12月22日

～2019年2月3日

※12月23日、2月3日に金坂先生によるギャラリーツアーを開催

**開催場所:**新潟日報メディアシップ

**来場者数:**約6,400人

**地主催者:**新潟商工会議所、新潟日报社

**共催:**京都大学総合博物館、東京大学駒場博物館、北海道大学総合博物館

コア期間

## 開港記念日イベント



万代テラスで照明演出



What's NiiGATAモニュメントの照明演出



2019年1月1日 新潟は開港してから150周年を迎えた

1869年に新潟湊が世界に開かれてから2019年1月1日で150周年を迎えた。

この記念すべき節目をお祝いしようと、光と音でみなとまち新潟を彩り、新たなまちづくりの船出を盛り上げようとするイベントを実施。初詣の参拝者に沸く白山神社周辺の信濃川水面から、午後0時の時報と

同時に花火を打ち上げた。

また、新潟西港に在港している旅客船が汽笛を鳴らし港らしさを演出していただくとともに、万代テラス周辺ではイルミネーション点灯が行われるなど、開港記念日を祝うイベントを実施した。

### ◆ イルミネーション

**開催日時:** 2019年1月1日

大晦日17:00～元日6:00

**開催場所:** 万代テラス

(萬代橋の下流右岸側)

イルミネーションチューブ型LEDライトによる照明演出、What's NiiGATAモニュメントの照明演出

### ◆ 打上花火

**開催日時:** 2019年1月1日0:00～(150秒間)

**開催場所:** 信濃川(りゅーとぴあ付近)

**来場者数:** 1,000人

### ◆ 汽笛吹鳴

**開催日時:** 2019年1月1日 0:00～

**開催場所:** 新潟西港



コア期間

## 記念シンポジウム



### プログラム

主催者 あいさつ	中原 八一 会長 新潟市長 花角 英世 名誉会長 新潟県知事
基調講演	<b>開港150周年の新潟のまちづくり</b> 講師 西村 幸夫 氏  東京大学名誉教授／ 神戸芸術工科大学芸術工学研究機構長・ 教授
パネル ディス カッション	<b>Starting port</b> <b>一みたとまち新潟の新たな船出</b> パネリスト 中原 八一 氏 新潟市長 花角 英世 氏 新潟県知事 高橋 すみ 氏 料亭鍋茶屋女将 野内 隆裕 氏 路地連新潟代表  アドバイザー 西村 幸夫 氏 東京大学名誉教授  コーディネーター 菊野 麻子 氏 フリーアナウンサー

開港150周年という記念すべき機会を好機ととらえ、新潟が港とともに繁栄してきた歴史をふり返し、これからのまちづくりについて考えるシンポジウムを開催した。

2018年7月には、新潟県と新潟市が一体となって新潟都心の都市デザインを策定。これまでの新潟の歴史を見つめ直し、古町や西港、万代島周辺の魅力の向上、都心軸や副軸による回遊性の向上などが盛り込まれた。

未来に向かって今後のまちづくりの方向性を共有する機会とした。

**開催日時:**2019年2月9日  
13:30~16:00

**開催場所:**だいしホール  
**来場者数:**約260人

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

## 基調講演 開港150周年の新潟のまちづくり



**西村 幸夫 氏** 東京大学名誉教授／  
神戸芸術工科大学芸術工学研究機構長・教授

まちは誰かが計画して出来上がっている。新潟がどんな構想の基に作られ、近代化されてきたか。今後どのように構想していくべきか。まちを計画する立場からお話したい。

新潟は、都市計画的に見ると、約350年前に最高に計画された例外的なまちだ。川湊であり、海に面した「みなとまち」とは性格が異なる。県庁所在地としては日本で唯一だ。

また、川が動いて浅くなったため、二度も大きな計画的移転をした。そのような大都市は他にはない。世界で一つの、非常にユニークな計画都市だと言える。

川湊は、日本中にあるが移転しているところは少ない。川全体の大きな物流における河口でのコントロールポイントになる。当時は阿賀野川と信濃川が合流していて、2つの川と海を結ぶ合流地点にあった。戦略的にも重要視してたのだろう。

新潟は非常におもしろいヨコ軸（川と並行した道）都市だ。明解な道路の段階構成があり、堀がめぐらされ、まるでアムステルダムのようなものだ。

日本海側のみなとまちは干満の差が少なく大変有利。新潟は北前船の寄港地であり、文化が豊か。米の集散地点でもあり、計画的に水網都市を作ることができた。太平洋側にも川湊があるが、物流規模が違い新潟のような川湊はできていない。

近代になると、水運のまちを大きく変える課題に直面した。そのとき考えられた近代の構想は、古町と新市街をタテ軸でつなく非常に新しい構想だった。駅、橋、メインの道をどこにつくって都市をひらくか。選ばれたのが萬代橋と榎谷小路だった。

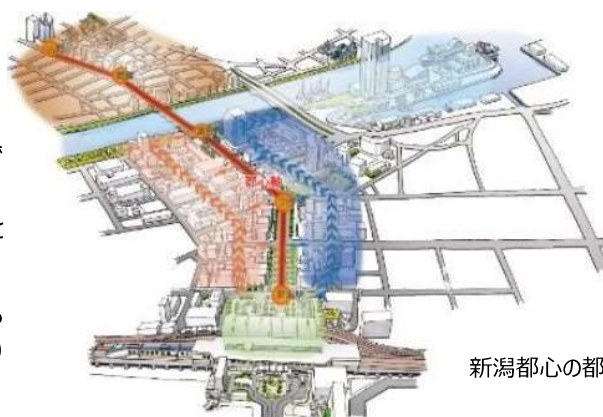
1904年には今の弁天公園の場所に新潟駅ができた。そして、堀の転用。徐々に使われなくなった上、1955年の新潟大火、1964年には国体の開催と、高度成長期に迅速に都市を復興させるため、堀を埋めざるを得なかった。現代なら、埋める以外の道を選んだかもしれない。

つまり、この150年は、ヨコ軸の都市に対してタテ軸を新しい近代の軸として作り、交点を大事に近代化してきた。しかし、古町側での見事な江戸時代の都市計画を万代側で実現できたかと言うと、改善の余地がある。今後のまちづくりは、これまでの大きな歴史の流れの中で考える必要がある。それは、開港150周年であり、新潟駅の高架化しようとする今ではないか。古町で展開されてきた計画に匹敵するようなビジョンで都心の背骨をつくるべきだ。

タテ軸を、もう少し人が歩けるような線から面に広げる。拠点・拠点に色々なものを仕掛けると、もっと魅力的に歩けるのではないか。

これから先のビジョンは、これまでの150年を大切にして、タテ軸を古町までしっかりとつなげ、古町の再生を図っていくことが重要である。

近世の軸と近代の軸をうまく交わせるのが、新しい都市デザインのあり方なのではないだろうか。



新潟都心の都市デザイン



## パネルディスカッション Starting port-みなとまち新潟の新たな船出



みなとまちを盛り上げておられるパネリストの皆さんから、みなとまち新潟の印象、これまでの活動、今後のまちづくりなどについて話し合っていた。

**菊野 麻子 氏**  
フリーアナウンサー



**高橋 すみ 氏**  
料亭鍋茶屋女将



**野内 隆裕 氏**  
路地連新潟代表



京都から新潟へ嫁ぎ、当時は、川の水量や広大な越後平野、素晴らしい日本海と、すべてが堂々としていて感銘を受けた。

明治の半ばから花柳界は誕生したが、一部の限られた方のものであった。30年前くらいから、伝統芸能を継承していることを知ってもらおうと、学校へ課外授業に出向いたり、食をテーマにしたイベントと連携して各料亭で芸妓の舞を披露したりと色々活動してきた。

今から32年前に、84社から出資をいただいて「柳都振興」という株式会社を設立して、若手育成にも力を入れてきた。



鍋茶屋通り



古町芸妓

まちに育てていただいた花柳界ということが私たちのベースにある。みなとまちなものだからおもてなしを大切にしていきたい。

まちを美しくしたり、歓迎する気持ちを伝えられる、そんなまちになってほしい。

新潟のまち並みに注目していただくと、みなとまちのイメージが見えてくるはず。

かつての新潟町と対岸の沼垂町、どちらも川に平行して通りや小路ができていて、堀割が掘られている。そして河口に土砂が流れてきて、土地ができ、中洲の島ができ、今の下町エリアを形成している。

このドラマチックなこのストーリーを可視化して、みんなで楽しんで歩いていただくよう活動している。



みなとらしさをもっと発信していくこと。そのためにも、まちなみの魅力を歩いて楽しめるコースがきちんと整備されることは非常にいいこと。北前船の寄港地集落とか、こうした交流をさらに広げていきたい。

かつてイザベラ・バードが旅した横浜から日光、会津、津川、新潟、木崎、黒川へと抜け、山形へというように、各地をつないでいけたらと考えている。

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



## 中原 八一 氏

新潟市長

新潟は川湊であることが他の開港五港にない特徴。人、モノ、情報が行き交い、近隣地域と一体的に発展してきた。交通インフラが整いポテンシャルが非常に高いが、まだ伸びしろはあるまち。

記念事業では、様々なイベントを開催してきた。コラボ商品も数多く誕生するなど、民間も含めた盛り上がりにつながっているのがこのたびの開港150周年の特徴。

ハード面では、新潟駅周辺整備、古町通7番町の再開発を進め、それに伴い駅前や万代シティのリニューアルなど、民間主体の再開発にもいい影響が出始めている。

AIやIOTといった先端技術の実証の場などビジネス拠点づくりにも取り組んでいる。

今後、都市デザインを具現化していく中で、弁天ルートや花園ルートを歩いて楽しくなるような空間づくりをしていくことも重要である。

古町に関しても歴史的なまち並みや花街文化が残っており、歴史を生かしたまちづくりにも取り組んでいきたい。



## 花角 英世 氏

新潟県知事

新潟は水の多いまち、水が近いまち。港をまちの一部と捉え賑わいを持たせたい。

万代島を中心とする水辺ゾーンの賑わいをどう作るか、新潟市と連携して取り組んでいる。

新潟駅からの動線をしっかり作りたい。ピアBandaiも含めて、万代島地区一帯に人が回遊するような賑わいを創っていきたい。

県全体の交流人口の拡大が課題と捉えている。地域の経済社会が活力を持つためには、多様な人、文化が交わる賑わいのある新潟づくりを目指していくことを大きな柱として掲げている。

交通ネットワークは確実に充実してきていると感じている。人を呼び込むと同時に、人を引き付ける魅力づくりも大切。ハード部分の整備、交通機関の使い勝手をしっかりと向上させていきたい。

中・長期の取り組みとなるが、空港と港と駅をもっと有機的に結び付けたいという課題を認識しながら、一步一步取り組んでいきたい。



## 西村 幸夫 氏

アドバイザー

魅力的なまちは魅力的な人を育てる。そういう人たちが伝える人になって色んな人に伝わっていく。

野内さん、高橋さんのお話を聞いていて、重要な日本のエッセンスを守って展開されていると感じた。

まちにとって回遊はすごく大事。駅前にはばかり人が集中してしまうのではという不安もあるが、それと同時に色々なところが魅力的になり回遊する仕組みを考えていく必要がある。今が一番重要な時期。

駅前の開発と古町の方をいかに強化すべきかのバランスをとりながら一緒に進めるべき。都心軸の強化と歴史的なところを守るということをぜひワンセットで考えてほしい。

どういうふうにもモノを見るかが大切。単に一番目立つところばかりでは味気ない。背景としてある物語の中で見ていくと理解も深まるもの。

新潟は、まちを歩いていても船が見えるわけではない。それは川湊なのだから当然のこと。まちの道路パターンが残っていることがみなとまちの遺産と言える。

県と市が協調し同じ方向を見ていて、すごくいい議論がされている。開港150周年というタイミングが重要で、今日の議論が時代をけん引していくものになればと思う。





コア期間

## NHKのど自慢



全国に向けて、新潟開港150周年を迎えた新潟港と「みなとまち新潟」をPRするため番組「NHKのど自慢」を誘致し、公開生放送を行った。

2,000組を超える応募の中、100倍以上の難関を突破した本選出場者がチャンピオンを目指して美声を響かせた。

ゲストとして、小林幸子さんと増位山太志郎さんにご出演いただき、新潟開港150周年ならではの「のど自慢」となった。

全国へのテレビ・ラジオの生放送に加え、

海外に向けても放送され、みなとまち新潟の魅力を世界中に発信することができた。

**開催日:** 2019年2月17日 公開放送  
2019年2月16日 予選会

**開催場所:** 新潟テルサ

**来場者数:** 公開放送 1,281人  
予選会 1,250人

**他主催者:** NHK新潟放送局、新潟市

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

コア期間

# Dia Land OPENING FESTA

みなとまち新潟に新しい街が誕生



## オープニングセレモニー概要

### ◆ 次第

- ・ 記念植樹
- ・ あいさつ
- ・ テープカット

### ◆ 出席者

中原 八一	会長 新潟市長
及川 浩	ダイア建設新潟株式会社 代表取締役
真島 義郎 氏	上所校区コミュニティ協議会 会長
岸 孝司 氏	イオンリテール株式会社 常務執行役員 北信越カンパニー 支社長 (ほか)

開港150周年の記念すべき節目に、新潟市中央卸売市場跡地に防災・交流拠点をもつニュータウンが誕生。

旧中央卸売市場跡地を活用したニュータウン・ディアランドのまち開きイベントを開催。協力団体によるステージ発表、ブース出展・展示など、まちの交流拡大を図った。

**開催日時:** 2019年4月27日  
10:00~16:00

**開催場所:** 新潟市中央区上所3丁目  
(新潟市中央卸売市場跡地)

**来場者数:** 300人

**他主催者:** ダイア建設新潟株式会社



コア期間

## 護衛艦「みょうこう」一般公開

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



護衛艦「みょうこう」は、圧倒的な防空能力を持つイージス・システムを搭載し、弾道ミサイル対処も担う護衛艦。舞鶴を母港としながら、日本の平和と安全を守っている。

一般公開に合わせて、岸壁では軽装甲機動車や偵察用オートバイ等の車両展示も行い、会場は大いに賑わった。

県内外の幅広い年代の方々から来場してもらい、港を身近に感じてもらうとともに、港の大切さを考えてもらう機会を提供できた。

### スケジュール

2019年 7月12日	新潟東港着岸 入港セレモニー
7月13日 ～15日	一般公開
7月16日	新潟東港出港

<b>開催期間:</b> 2019年7月13日～7月15日
<b>開催場所:</b> 新潟東港東ふ頭
<b>来場者数:</b> 約15,500人
<b>他主催者:</b> 海上自衛隊

コア期間

# Nii port フェスタ2019

## 学んで楽しめるみなとまちイベント



未来を担う子どもたちをターゲットに、川・海・港に関連した「学び・楽しみ」の機会を提供しようと、民間企業や官公庁、港湾関連団体などが協力して「Niiportフェスタ2019」を開催。

子どもたちが夏休みの自由研究に活用できる要素を取り入れたブース展示や体験コーナー等を多数企画。当日は多くの親子連れが会場を訪れ、みなとエリアのにぎわいの創出に貢献した。

Nii portフェスタに出展した民間企業らが中心になって企画した後継イベント「万代島こども秘密基地」の開催（2020年2月）につながった。今後も万代島から未来に夢の持てる創造的な取り組みが展開されていくことが期待される。

### 出展内容

- ・ 学びのブース  
海や港で働く人々の仕事の紹介、船舶の模型展示等
- ・ 体験のブース  
海や港に関係する工作等
- ・ ステージイベント
- ・ はたらく船、車の展示
- ・ 低速電動バス実験 など

**開催日時:** 2019年7月28日  
10:00~16:00

**開催場所:** 万代島多目的広場（大かま）

**来場者数:** 約7,200人

**出展者数:** 43団体（出演者含む）



コア期間

# 川もり海もり調査隊2019

## 子ども流域連携体験交流

新潟開港150周年を契機に、開港五港で唯一の川湊である新潟港の歴史に触れ、信濃川や阿賀野川でつながる新潟と長野と福島の子どもの交流を図ろうと子ども流域連携体験交流に取り組んだ。

未来を担う子どもたちから、川の大切さを知っていただき海に親しみを持ってもらおうと「川もり海もり調査隊」の結成を呼び掛けた。



この取り組みは、日本財団 海と日本プロジェクトの一環として行われたものです。

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

### 新潟×長野

7月 29日・30日	体験交流会 新潟市内で1泊2日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nii portフェスタ会場を見学</li> <li>・日本海区水産研究所を訪問</li> <li>・おさかなマイスターから世界の水産資源や流通について学ぶ</li> <li>・焼き魚の食べ方を学ぶ</li> <li>・地引き網体験</li> <li>・千曲川・信濃川の流域マップを作成</li> </ul>	
参加者	新潟・長野の小学 5・6年生 42人



Nii portフェスタ会場で海のアクセサリーづくりを体験



日本海区水産研究所で日本海と水産資源について学ぶ



お魚マイスターによる焼き魚の食べ方講座



参加者の中には初めての経験となった子ども達もいた地引き網体験





新潟、長野それぞれの地域の川や産業などについて教え合い、各地の特色を盛り込んだマップを作成



グループごとに作成したマップを発表し、全員で共有





新潟×福島

8月6日	<b>体験交流会</b> 新潟市内・聖籠町で日帰り
日本海のエネルギーを学ぼう ・石油の世界館 ・日本海エル・エヌ・ジー株式会社を訪問	
参加者	新潟・福島の小学 5・6年生 27人



石油の世界館を見学



石油がしみだした地層を見学



地層ができる仕組みを学ぶ



日本海エル・エヌ・ジー新潟基地を見学し、天然ガスとエネルギー輸送について学ぶ

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

8月  
19日・20日

**体験交流会**

新潟市・聖籠町内で1泊2日

日本海の水産資源を知ろう

- ・石油の里で地層観察
- ・新潟大学 本田先生の講義
- ・海の安全講座
- ・LNG基地見学
- ・流域マップを作成

**参加者**

新潟・福島の小  
5・6年生 30人



およそ500万年前は海の底にあったことを知る



秋葉丘陵で産出する原油や天然ガスを見学



海水からつくる、雪の結晶づくり実験の様子



結晶づくりを通じて海水の循環の仕組みを学んだ

**◆ 冊子の作成**

**配布:**新潟市・佐渡市・聖籠町・長野市・川上村・会津若松市および、新潟県内の信濃川・阿賀野川の3 km圏内にある小学校の5年生児童(約18,500人)

※一部4年生にも配布





コア期間

## みなとまち新潟探検隊2019



旧阿賀野川跡（：現通船川）コースでは、かつての川跡や海岸からの新潟砂丘について学ぶ

### まち巡りのテーマ

2019年 8月6日	新潟砂丘と川跡をめぐる
川跡と新潟砂丘（東区河渡） ↓ 大山台公園展望台 ↓ 山の下閘門排水機場	
十兵衛堀跡などを見学しながらまち歩き	
8月7日	開港のまちめぐり
白山公園 ↓ いこい公園 ↓ 古町周辺の小路めぐり ↓ 旧齋藤家別邸	
イザベラ・バードが旅したルートをたどる	
8月8日	日和山5合目登山
旧新潟税関庁舎 ↓ 湊稻荷神社 ↓ 旧小澤家 ↓ 日和山(12.3m)	
日本遺産構成文化財を見学しながらまち歩き	

### プログラム

午前	港湾業務艇の乗船体験 水理実験場の施設見学
午後	日ごとにルートが異なるテーマ別にまちめぐり

小・中学生を対象に親子で参加できる探検企画を実施。新潟港のゆかりの地を訪ね、その役割や歴史について学んだ。

午前は、乗船体験と水理実験場の見学、午後は日ごとにルートが異なるまちめぐりを行い、新潟シティガイドの案内により、見て・聞いて・語り合いながらみなとまち新潟の歴史を学んだ。

**開催期間:**2019年8月6日～8月8日

**開催場所:**新潟港湾・空港整備事務所  
(集合・解散)

**参加者数:**69人

**他主催者:**新潟港湾・空港整備事務所、  
新潟シティガイド、  
新潟港湾空港技術調査事務所、  
路地連新潟の協力により開催

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



山の下閘門(こうもん)排水機場で海と川の水位差を見学



新潟シティガイドがイザベラ・バードの足跡を案内



湊稲荷で願懸け狛犬まわしにチャレンジ



業務艇「あさひ」に乗船して港内をクルーズ



「鳴り砂」体験できれいな海の大切さに気づく



波のデモンストレーションを見学して海への理解を深める



消波ブロックと防波堤の役割を模型で学ぶ



コア期間

## JRA新潟競馬特別レース 柳都ステークス 新潟開港150周年記念

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



開港150周年を記念して、さらなる交流拡大と「みなとまち新潟」の盛り上げを図ろうと、新潟競馬特別レース柳都ステークス・新潟開港150周年記念が開催された。

新潟競馬場は日ごろから、新潟市と災害時の応援に係る協定を締結するなど地域貢献もいただいている。

レースで見事1着に輝いたドラゴンカップ（騎手：M.デムーロさん）の馬主へ、実行委員会の中原会長から江戸時代の塗技法である臙銀塗り（おぼろぎんぬり）の新潟漆器を贈呈した。

レース前には新潟をPRする動画が放映され、県内外から訪れた多くの来場者に向け、みなとまち新潟の魅力を発信した。また、テレビ中継により全国へも発信された。



**開催期間:**2019年8月11日

15:10～

**開催場所:**JRA新潟競馬場

**観覧者数:**19,595人

**他主催者:**JRA

コア期間

## 海上自衛隊東京音楽隊コンサート



迫力ある演奏は、新潟開港150周年を盛大に盛り上げてくれた。



観客で埋め尽くされた会場



中川さんと、木村さんのデュオも披露



新潟大学合唱団もゲスト出演

新潟開港150周年を記念して、海上自衛隊東京音楽隊によるコンサートを開催。

海上自衛隊東京音楽隊は、伝統を礎に新たな響きを求め、これからの吹奏楽の可能性を開拓し続け、世界を舞台に活躍する日本屈指の音楽隊。

新潟市出身でミスワールドジャパン音楽部所属の木村友香さん、新潟大学合唱団の学生がゲスト出演した。

市内外から多数の申し込みをいただき、抽選により招待状を発送することになった。

### プログラム

- ・ウェルカムコンサート
- ・主催者あいさつ
- ・コンサート  
(2部構成 14曲+アンコール2曲)

**開催期間:**2019年9月25日 18:30開演

**開催場所:**新潟市民芸術文化会館  
りゅーとぴあコンサートホール

**来場者数:**約1,500人

**他主催者:**(公財)新潟市芸術文化振興財団

**協力:**自衛隊新潟地方協力本部、  
新潟県自衛隊援護協力会



コア期間

## 新潟開港150周年記念 NHK「みなとまち新潟音楽祭」

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編



新潟開港150周年を記念し、県内外に向けてみなとまち新潟をPRすることを目的として、新潟ゆかりのアーティストによる音楽イベントを開催。

公開収録では、出演者による“新潟愛”あふれるトークも行われ、新潟の歴史や風土、立ち寄りスポットなど、出演者の思い出などから新潟の魅力が語られた。

出演者の歌声や演奏もさることながら、みなとまち新潟の素晴らしさや魅力をあらためて知っていただく機会となった。

収録後の番組は、県内向けに複数回に分けて放送されたほか、全国放送も行われ、開港150周年を迎えたみなとまち新潟を広く発信することにつながった。

### 出演アーティスト ※五十音順

岩崎 宏美	歌手
奥村 愛	バイオリニスト
鼓 童	太鼓芸能集団
小林 幸子	歌手
高崎 翔太	俳優
Hilcrhyme	アーティスト
TSUNEI	シンガーソングライター
Negicco	新潟発アイドル・ユニット
司会：佐藤 俊吉	NHKアナウンサー

**収録日**:2019年10月9日

**収録場所**:新潟テルサ

**収録来場者数**:1,300人

**放送日**:<新潟県域>

2019年10月25日 第1部

2019年11月 1日 第2部

2019年12月20日 拡大版

<全国放送>

2019年11月 7日

2019年11月22日 (BS1)

**他主催者**:NHK新潟放送局、新潟市

コア期間

G-SHOCK presents  
**CUT IN PARK 2019**



開港150周年を記念し、ストリートカルチャーに密接したスポーツやアートを通じて、みなとまち新潟を盛り上げようと、若者に人気のストリートスポーツイベント「CUT IN PARK 2019」を開催。2016年、2017年、2018年の開催に続いて4回目の開催となる。

恒例のダンスバトル、日本トップクラスのライダーによるBMXショー、子どもたちのランニングバイクのレースなどが行われ、ハイレベルな熱戦が繰り広げられた。

来場者のほとんどが若者であり、多様な世代に向け、開港150周年をアピールすることにつながった。

**開催日:**2019年11月30日・12月1日  
**開催場所:**万代島多目的広場（大かま）  
**来場者数:**約6,800人  
**他主催者:**LIFE STYLE WEB MAGAZINE  
CUT INと共同で開催



コア期間

## 記念フォーラム つながる地域、広がる都市間交流

—新潟開港150周年を契機とした、さらなる地域連携の可能性—



地域・都市間交流によって発展する未来の新潟について考えるフォーラムを開催。  
フォーラム開催前日にイベントとして、基調講演の講師を務める金坂 氏も参加した  
まち歩きやトークセッションも行われた。

### プログラム

開会 あいさつ	中原 八一 会長 新潟市長 福田 勝之 副会長 新潟商工会議所会頭
基調講演	<b>イザベラ・バードの新潟の旅と 活写された新潟</b> 講師 金坂 清則 氏 京都大学名誉教授/地理学者
パネル ディス カッション	<b>さらなる交流拡大に向けて</b> パネリスト 中原 八一 氏 新潟市長 室井 照平 氏 会津若松市長 高岡 はつえ 氏 沼垂テラス商店街 統括マネージャー 渋川 恵男 氏 会津若松商工会議所会頭 コーディネーター 野内 隆裕 氏 路地連新潟代表
開会 あいさつ	佐藤 明 副会長 新潟日报社 常務取締役営業統括本部長

**開催日時:**2019年12月15日  
14:00~17:00  
**開催場所:**新潟市民芸術文化会館  
**来場者数:**約300人  
**他主催者:**新潟商工会議所、新潟日报社  
**協力:**会津若松市、会津若松商工会  
議所、福島民報社  
**後援:**新潟県新潟地域振興局、  
新潟県観光協会、  
新潟観光コンベンション協会、  
胎内市、阿賀町、関川村

### イベント(12月14日開催)

**まち歩き**  
新潟シティガイドによる古町界隈  
の散策  
**トークセッション**  
イザベラ・バードをテーマに活動す  
る県内の地域活動団体が出演

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

## 基調講演 イザベラ・バードの新潟の旅と活写された新潟



### 金坂 清則 氏

京都大学名誉教授／地理学者

本日のフォーラムでは、地域・都市間交流がテーマとなっていて、会津若松市の方々がお見えになっている。実は、バードが京都滞在中17日間も宿にしていたのは、新島襄の妻、つまり旧会津藩土山本覚馬の妹・八重が舎監をしていた

同志社女学校。バードは2人の新居を訪れ歓談もしている。新潟市が県を越えた地域連携を、まず会津若松市のトップを招いて考えるという企画に大変ご縁を感じる。

バードの日本の旅と旅行記の真実は、簡略本原著の問題の多い訳書とそれに追随する識者の主張の定着のためにうまく伝えられてこなかった。そのため、新潟は長きにわたり一般の人びとの関心を引くものではなかったが、事実は全く異なる。2018年に『完訳 日本奥地紀行』の新潟県の部分を朗読したラジオ番組「イザベラ・バードが見た明治の新潟（BSN新潟放送）」が放送されたことで、その真実が新潟で一気に知られることになった。今日は新潟への旅と8日間にも及んだ新潟滞在、そして新潟に関するバードの豊穰なる記述を紹介する。



新潟は、バードにとって極めて重要な場所で、新潟訪問は不可欠なものであり、それゆえその記録は詳細を極めてい。歴史資料としてのみならず、今を生きる私たちや新潟市の未来を考える上でも貴重なもの。さらに、バードの本当の旅とその記録への理解に根ざした関心とさまざまな活動が展開しつつある新潟こそ、世界におけるバード研究と活動の磁場となるにふさわしい都市だと断言できるし、そうやっていってほしいと思っている。これは新潟の未来を考える上での一つのよりどころになる。

史上最も優れた旅行家の一人と評価できるバードとその旅の「ツイン・タイム・トラベル（過去の旅行記に描かれた旅の時空と自らの旅の時空を後者に主体性を持たせつつ重ね合わせる旅）」を通しての交流によって、日本国内のみならず、バードの母国英国とのつながりも生まれるだろう。私がおの場所を明らかにした宣教師ファインソン夫妻宅や、「通りと堀」と題した銅版画の解明の意義は、英国との交流が活発となることで一層重要になると感じている。



## パネルディスカッション さらなる交流拡大に向けて



開催概要

実行委員会事業



**高岡 はつえ 氏**

沼垂テラス商店街  
(テラスオフィス)  
統括マネージャー

沼垂テラス商店街の場所は、昭和30年代に堀を埋め立ててできた公衆市場で、地域にとって食と娯楽の場だった。10年前は往時の面影はなくボロボロのシャッター通りだったが、寺院と工場に囲まれた独特の雰囲気にかかれて三つのお店がオープン。市場組合の規約があり新規出店が難しく、また組合員が高齢化していたこともあって、私たちが会社を設立して市場を買い取り、新たな商店街を誕生させた。

以降、まちづくりをミッションとし、沼垂の資源を活かした「ここでしか出会えないモノヒト空間」をコンセプトに主にSNSを活用して情報を発信してきた。2016年には地域再生大賞の準大賞をはじめさまざまな賞をいただいたほか、各種メディアでも多く取り上げられた。様々なメディアに露出したこと

とで、全国から視察に来ていただき、逆に講演に呼ばれたりといった交流が生まれている。



連携事業

関連施策



**渋川 恵男 氏**

会津若松商工会議所  
会頭

七日町（なぬかまち）は会津若松市街の外れにある、30年前は1日の来訪者がゼロのシャッター通りだった。明治から昭和の建物が更新されないまま並ぶ街並みは、7割が空き店舗。建っていればまだしも壊されて歯抜けになり、このままでは街がなくなるという危機感から修景に取り組んだ。武家文化の都が150年前に完膚なきまでに破壊され、まちの担い手だった武士が斗南（となみ）藩に移住していなくなり、いや応なく町人の街に転換したのが会津。そのダイナミズムを現代に具現したいという想いで15年。修景により個性的なテナントが集まるようになった。



協賛・応援

資料編

JR七日町駅はわれわれが借り受けて活用し、現在年間30万人が訪れる。100万人来れば3万人の定住者がいるのと同じ経済効果と言われており、100万人を目指している。

また、交通では間もなく国道289号線が開通する。2020年は映画「峠」の公開があり、インパクトのある話題が提供できる。

新潟と会津、地域ごとに歴史も魅力も異なり、一つの大きなテーマパークとして分担すると考えて、まちの個性を活かし各地で自助努力をしていきたい。



**中原 八一氏**  
新潟市長

開港150周年記念事業により、新潟がみなとと共に発展してきたこと、さらなる発展のために欠かせない存在であるという認識を深めてもらい、みなとまち新潟の魅力・すばらしさを内外に発信できた。

開港150周年を契機に新潟県と協力して「新潟都心の都市デザイン」や「万代島地区将来ビジョン」を策定し、みなとまちを活かした新たなまちづくりもスタートした。新潟駅周辺整備の推進やクルーズ船・航空路の誘致など新潟港、新潟空港をさらに活性化することで拠点性の向上を図る。

新潟は会津若松市を始め、多くの地域と川・海でつながることで交流・繁栄してきた。さらなる発展のために、これまでの基盤の上にさらに地域間交流、都市間交流を広げていきたい。



**室井 照平氏**  
会津若松市長

新潟市と会津若松市は古くは北前船の時代から舟運によりつながり、磐越西線、磐越自動車道開通と結びつきの形を変えてきた。大震災の時には列車が新潟から石油、灯油、ガソリンを積んで磐越西線を走り、会津若松、郡山まで届けたことは記憶に新しい。

新潟県から福島県へ入るインバウンドは、この3年で約3倍に伸びた。2018年には新潟空港へピーチ・アビエーションが就航し、関西方面からの集客も見込めるようになった。

新潟市とは、大河ドラマ「八重の桜」放送前年の2012年に観光交流宣言を行い、これまでもさまざまな連携をしてきたが、なお一層の連携で一緒にインバウンド、関西からの来訪者を取り込んでいきたい。広域でしっかり連携してルートを発信したり、受け皿を作ることは必須。



**野内 隆裕氏**  
路地連新潟代表

旅行者が何を目指して旅をしているのかと言えば、その地域の「輝く点（場所）」。

現在、旅行誌などで魅力ある場所として大きく取り上げられているのが、新潟では沼垂テラス商店街、会津では七日町。それぞれの点をどうやって輝かせてきたのか、また、点と点をつなぐ「線（交流）」を太くする取り組みを伺った。

新潟と会津、お互いの魅力ある場所をこれからも輝かせ、交流を太くする。また、歴史や物語でもつながっていける可能性が見えた。これからも民と官が互いに行動したうえで、協力していけたらと思う。





## イベント

### まち歩き イザベラ・バードと明治の新潟コース

記念フォーラムの前日14日に行われたイベントの一つ、まち歩きは、定員いっぱいの30人が参加。3班に分かれてNEXT21から白山公園まで1.5キロのコースで行った。

参加者は、新潟シティガイドの説明に耳を傾けながら、路地を抜けたり、見過ごしてしまいそうなモノや風景に気付いたりしながら「ツイン・タイム・トラベル」を楽しんだ。



### トークセッション イザベラ・バードでつながり、新潟を発信しよう！



まち歩きに続いて行われたトークセッションでは、イザベラ・バードが歩いた津川（阿賀町）、新潟（新潟市中央区）、木崎（新潟市北区）、中条（胎内市）でまち歩きを行うグループがパネリストとして登壇。地域連携をさらに発展させていくことをテーマに今後の展望などを話し合った。



#### パネリスト

齋藤 勝子 氏 新潟シティガイド  
先川 幸宏 氏 路地連胎内  
田辺 修一 氏 北宝隊  
薄 友一 氏 阿賀町観光ガイド

#### ゲストコメンテーター

金坂 清則 氏 京都大学名誉教授／地理学者

#### コーディネーター

伊藤 頼子 氏 新潟イザベラ・バード研究会代表

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

コア期間

## メモリアルプロジェクト

新潟開港150周年により生み出された、人と人との交流や「みなとまち新潟」のブランドイメージなどを次世代に継承するためメモリアルプロジェクトを展開してきた。幾つかのモニュメント類をみなとエリアの中核施設・大かまに設置した。

### 新潟西港水域の愛称

「新潟西港水域」の  
愛称が  
決定しました！

# Nii port

[ニイポート]



開港五港のうち唯一、川の河口にある港・新潟港。古くから信濃川・阿賀野川と日本海を結ぶ結節点となり、人・モノの交流拠点として機能してきた。

開港150周年という節目に、みなとエリアの魅力向上につながるよう、みんなに愛される新潟西港水域の愛称を募集したところ、次の名称に決定した。（応募総数：409件）

最優秀賞	Nii port (ニイポート) 説明   Niigata の「Nii」、賑わいの「Ni」、西港の「Ni」、愛される港の「i」、港の「port」を表現。 外国客船も将来入港するように願いを込めてアルファベット表記に！これをくっつけて「Nii port」。
優秀賞	うみかぜポート・しなのポート・ときぼーと・にいポート・NIIPORT-WESTエリア・こうゆーと・ 柳都 B A Y ・りゅーぼーと・かわミナート（新潟）・新潟ゆめ海廊 計10件



モニュメント類

■ 小林幸子さんの手形サイン(屋内)



TEAM Nii port  
キャプテン  
小林幸子さん

■ 記念碑(屋外)



多くの方から好評を得てきた開港  
150周年ロゴの石碑。材料：黒御  
影石。サイズ：W0.9m×H1.2m。

■ 壁画モニュメント(屋内)



左側：「みなとまち新潟」をPRするための壁画を設置。サイズ：W7.0m×2.0m。



右側：トリックアートの技法を凝らした3D壁画も併せて設置。  
(株)本間組 様からの寄贈品。サイズ：W5.5m×H4.4m。

開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

## その他(共催・後援)

### 共催(主な事業)

#### ■ みなと新潟「光の響演2018」



新潟開港150周年にちなんで、港をテーマにしたプロジェクションマッピングを上映

主催	みなと新潟「光の響演2018」開催実行委員会
年月日	2018年9月14日～17日
場所	新潟市歴史博物館 (ほか)

#### ■ 第12回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in佐渡



新潟開港150周年を契機に開催された全国大会は、来場者による人気投票で地元佐渡の「ブリ玉丼」が優勝

主催	第12回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in佐渡実行委員会 (ほか)
年月日	2019年10月19日・20日
場所	メイン会場：おんでこドーム サブ会場：あいぽーと佐渡



## 後援(主な事業)

### ■ 東京ラーメンショーin 新潟

主催	東京ラーメンショーin新潟 実行委員会
年月日	① 2018年 6月 1日～10日 ② 2019年 6月 5日～9日
場所	万代シティ歩行者天国



全国初の地方開催となった日本最大級のラーメンイベント

### ■ FOOD SONIC in 新潟 Supported by SUNTORY The PREMIUM MALT'S

主催	株式会社新潟テレビ21
年月日	① 2018年 5月26日・27日 ② 2019年 5月25日・26日
場所	① 万代テラス ② 万代島多目的広場



食ベログ3.5点以上のお店が多数出店

### ■ 新潟県民・市民クルーズ ダイヤモンド・プリンセス利用 新潟発着ツアー

主催	株式会社クルーズバケーション
年月日	2019年 11月15日～21日
場所	ダイヤモンド・プリンセス号

県民・市民に広く外国船クルーズを体験していただける機会としてツアーを企画



### ■ FULUMATi DISKO(フルマチ・ディスコ)

主催	武田 令
年月日	2019年 7月6日
場所	NEXT21 19階 展望ラウンジ

世界トップDJたるDimitri from Paris氏を新潟に招いた、一夜限りの夢のディスコ(クラブ)イベント



開催概要

実行委員会事業

連携事業

関連施策

協賛・応援

資料編

## 共催・後援一覧

### ■ 共催

共催事業名	とき・ところ	内容	実施主体	来場者数
What's 開港Vol3 APPROACH	2018年 3月24日	2018年7月から新潟開港150周年記念事業のコア期間が始まるにあたり、みなとを活かした新たなまちづくりについて考えるフォーラムを開催。	志民委員会 N・Visionプロジェクト	200人
	朱鷺メッセ			
にいがたおおかまキッズランド	2018年 3月25日	みなとに親しんでもらうために、万代島多目的広場（大かま）を会場に一日限りの子どもの遊び場「にいがたおおかまキッズランド」をオープン。	志民委員会 N・Visionプロジェクト	5,000人
	万代島多目的広場			
みなと新潟「光の響演2018」	2018年 9月14日～17日	みなとまち新潟の歴史や文化を象徴する建造物等を活用し、プロジェクトマッピングなど光と映像の演出と、地域文化のステージイベントなどを実施。	みなと新潟「光の響演2018」開催実行委員会	43,700人
	新潟市歴史博物館、信濃川左岸緑地（みなと・さがん）			
第12回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in佐渡	2019年 10月19日・20日	Sea級グルメ全国大会のメイン会場であるおんどこドームでは過去最多の来場者数を記録。両津港周辺の賑わいを創出することができた。	第12回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in佐渡実行委員会	15,000人
	佐渡市おんどこドーム、あいぼーと佐渡			

### ■ 後援

後援事業名	とき・ところ	内容	実施主体	来場者数
新潟開港150周年に向かって、障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり『新潟駅で障がい者アートの花絵をつくろう！』	2017年 4月30日～5月2日	障がいのある人もない人も一緒になって、障がいアートの花絵を制作した。	まちごと美術館プロジェクト	50人
	新潟駅万代口			
海と日本プロジェクト in 新潟 北前船調査団	2017年 7月～12月	北前船の歴史・文化を調査・勉強することを通じ、港や海の大切さを学ぶとともに、郷土愛の醸成を促進。	海と日本プロジェクト in 新潟実行委員会、株式会社新潟放送	108人
	新潟市歴史博物館、新潟市白山小学校、北海道小樽市			
新潟港セミナー2017	2017年 7月25日	主に首都圏の荷主・船社・物流業者に対し、新潟港利用のメリット・インセンティブ制度等を広く周知することを目的にセミナーを開催。	新潟県・新潟市・一般社団法人新潟港振興協会・株式会社新潟国際貿易ターミナル	163人
	富士ソフト アキバプラザ			
開港5都市景観まちづくり会議 2017新潟大会	2017年 9月1日～3日	安政5年に開港地に指定された5都市（函館、横浜、神戸、長崎、新潟）の市民団体が集い、交流や景観・まちづくりなどに関する意見交換を行った。	開港5都市景観まちづくり会議2017新潟大会実行委員会	500人
	新潟日報メディアシップほか			
FOOD SONIC 2018 in新潟 Supported by SUNTORY The PREMIUM MALT'S	2018年 5月26日・27日	新潟市万代テラスに食ベログ3.5点以上のお店が多数出店。アーティストライブやトークショーも楽しめるフードエンタテインメントフェスティバルを開催。	株式会社 新潟テレビ21	29,000人
	万代テラス			
東京ラーメンショーin 新潟 2018	2018年 6月1日～10日	日本最大級のラーメンイベント『東京ラーメンショー』。記念すべき第10回目を秋に控え、全国初の地方開催を実施。	東京ラーメンショーin新潟実行委員会	65,000人
	万代シティ歩行者天国			
クルーザーヨットで新潟港・日本海を体験しよう	2018年 7月16日	市民を無料招待し、大型ヨットの体験乗船会を実施。	新潟オフショアセーリングクラブ	42人
	新潟港区			
新潟港セミナー2018	2018年 7月25日	東京都内でセミナーを開催し、外貨コンテナ貨物を取り扱う荷主・船社・物流業者を対象に、新潟港のメリットや各種インセンティブ制度等について紹介。	新潟県・新潟市・聖籠町・一般社団法人新潟港振興協会・株式会社新潟国際貿易ターミナル	201人
	丸の内 MY PLAZA ホール			